

3 実践例 — 6年 —

(1) 題材名 レッツトライ！～夏休みホームプロジェクト～

(2) 本題材における知識創造

夏休みの自分の生活をよりよくするために 1学期の学びをどのように活かしたらよいかを考え 工夫して実践し 生活に活かすよさに気づいていく営み

1学期の題材は、生活時間の使い方、ごはんのみそ汁、衣服の選び方と手入れの仕方についてである。子どもはそれぞれの学習を通して、自分の生活を見つめること、実物にふれることや簡単な実験や比較、基礎・基本を習得する実習などを行い、それぞれの生活実態や気づいたこと、分かったことなどを話し合いながら学習を進めてきた。学習後には家庭実践を行っている。本題材は、1学期の学習の発展的な扱いとして位置づけられる。長期休暇である夏休みは、これまでの家庭生活の課題を洗い出し解決の方向を見出し、家庭科の学びを活かす良い機会である。子どもはこれまで5回の夏休みを経験してきている。低学年の時と違って6年生ともなれば、自立した自分の生活を意識することはもとより、家族の一員としての自覚を持った生活が望まれる。1学期の家庭科の学びをふり返し、夏休みの生活をよりよくするために家族にもはたらきかけ、自分でできることを考えてホームプロジェクトとして実践することとする。

まず、それぞれの1学期の学習内容を、学び方と思考の視点でふり返る。個々が有意義化したことには差異があると思われる。そこで、それを出し合うことでよさを共有すると共に、自分に不足していたり気づかなかったりしたことが見えてくる。そして、これまでの夏休みの自分の生活の仕方を想起し課題を洗い出し、何をどのようにして実践すればその課題をクリアできるかを考え計画書を作成する。計画書は家の人にも説明し協力を求め家庭実践を行う。その成果は、レポートとしてまとめ夏休み後に実践交流会を行う。全員で家庭実践に取り組み成果を交流するゴールをもつことで、自分の家庭生活を自分でよりよい楽しい物として創っていくことを明確に意識する。家庭での体験から新たな課題や自分なりの工夫が生じて、よりよくできる達成感や家族から認められる自己有用感が高まるであろう。さらに実践交流会での友達や教師からの評価によって、実践への意欲が持続していく。このような体験を通して、子どもはこれからも当事者意識をもって家庭科の学習に取り組み、自分の生活をよりよくしようとする実践的な力を育んでいくと考える。

(3) 家庭科における「プロセスの自覚」を促す・活かすために

① 本題材における「よさ」

本題材は、1学期の学びを受けての発展題材である。これまでの学びのプロセスの自覚を子どもがしないと成立しない題材である。また、学んだことを自分で考え計画して自分の生活に活かすそのよさを実感し、できた自分に喜びを感じることができる題材でもある。すなわち題材そのものがプロセスの自覚を促し「よさ」を認知し、実践し実践的自覚を促す道を進む。ホームプロジェクトの計画を立てるまでは教科論で述べた一つ目・二つ目のよさであり、夏休みの家庭実践が三つ目・四つ目のよさであり、実践交流会が実践的な自覚を促していくこととなる。これを本題材の「よさ」ととらえる。

② 「よさ」の共有のための手だて

本題材で知識創造に向かうための「よさ」の共有の場は大きく以下の三つととらえる。

- ・ 1学期の学びをふり返る場
- ・ 自分の夏休みの課題をつかみ課題解決の見通しを持つ場
- ・ 実践交流会で個々の「よさ」を共有する場

この三つの場で四つの「よさ」が共有できるようにしていく

ア 可視化

1学期の学びをふり返る場では、まず自分のこれまでのワークシートを見直したり、今の自分の生活実態を見つめたりする時間を設定する。それをもとにみんなで話し合い、個々が考えていることや獲得したことをみんなで見合えるようにする。学び方や考え方、新たな知識や技能、生活に活かす工夫などの視点を明らかにして「よさ」を価値づけていく。

自分の夏休みの課題をつかみ課題解決の見通しをもつ場では、これまでの自分の夏休みの過ごし方をふり返る。日記（以後「あゆみ」）を読み返したり家の人が自分の生活の仕方をどのように考えているか、何を願っているかをインタビューしたりする。子どもは家庭生活における家族との関係や自分の存在を意識して課題をもち実践に向かう意欲が高まると考える。

実践交流会では、レポートや写真や具体物等を使いながら発表し、実践の内容や様子、感想等が聞き手に伝わるようにし、友達のプロジェクトから「よさ」を共有できるようにする。

イ 「かわり」

グループで自分が得たことや困っていることなどを出し合うと共に、その内容や成果を全体で出し合い1学期の学びをふり返らせる。自分の学びに友達の学びが加わり、自分の学びの評価を意識

させることにもなると考える。

実践計画を立てる際は、まず自分なりにできそうなことを書き出させる。それを元に友達と実践の方法について話し合い付加や修正などを行って、実践の見通しを持たせ自分もできそう、やってみようという意欲を喚起する。実践ができるだけ単発に終わるのでなく長期休暇を生かした取り組みとなることにも注意を促す。

実践交流会は、全体で行い友達の工夫や成果に着目した感想を述べ合うようにする。各家庭の事情等により実践内容には差異が見られると思うが、全員が必ずよいところを認められるように配慮し自己有用感を損なわないようにしたい。

ウ 実践的な自覚へのデザイン

家庭にもこの実践のねらいや取り組みの内容を知らせ協力を仰ぐ。実践したことはレポートにまとめさせる。実践記録を残すことで自分が行ったことや工夫したこと、気づいたことが明確となり、そこからさらなる課題を見出し工夫を重ねていく主体的な実践への発展や、技能の習熟が期待できる。家の人からのコメントももらい、役に立つ喜びが感じられるようにする。

実践交流の場では、友達の実践を自分と比較しながら聞くようにし、自己評価と他者評価を交えてふり返り、つぎの実践に活かしていく。そして、できるようになった喜びや学んだことを家庭生活に活かす意味、実践方法の工夫を学級全体で共有し次の学習や実践への意欲を高めたい。

このように、学んだことを生活に生かす経験の積み重ねが、プロセスの自覚につながっていくと考える。

(4) 学習計画（総時数6時間＋夏季休業）

主な活動と内容	よさの共有のための手だてと意図
<p>1 めあてをもとに1学期の学びをふり返る <1学期をふりかえり自己の成長を知ろう> ・夏休みにホームプロジェクトを行い2学期の最初に交流会を開こうというめあてをもつ ・以下のことについて話し合う 何を学んだか どのようにして学んだか 考え方で変わったことや新しく考えたことは できるようになったことは何か</p>	<p>可視化 1学期に学習したことを観点に沿ってワークシートにまとめることで、自分の学習の仕方を客観的にとらえられるようにする</p> <p>かかわり 1学期の学びをふり返る観点を明確にし、話し合うようにする。意見を板書に位置づけよさや不十分なところを明らかにする。学び方や思考のよさを価値づけ全体に広めていく。</p>
<p>2 これまでの夏休みの生活をふり返り ホームプロジェクトの計画を立てる <これまでの夏休みの過ごし方をふり返り課題を見つけよう> ・だんだん朝寝坊になってきた ・食事が不規則になった ・家のお手伝いをよくした ・家族からの評価も聞いたよ ・課題を決めたよ <ホームプロジェクトの計画を立てよう> ・友達と方法を話し合っ自分の計画を立てよう ・生活時間の使い方を決めて実行しよう ・ごはんのみそ汁の朝ごはん作りができるよ ・環境を考えた洗濯の仕方を調べるのもいいな ・涼しくする工夫をしよう（打ち水、窓開け、服装など） ・家族にもホームプロジェクトを相談しよう</p>	<p>可視化 5年生の「あゆみ」を読み返したり家族からの聞き取りをしたりして、これまでの夏休みの生活の仕方を見つめさせる。</p> <p>かかわり 課題が同じ友達と実践の方法を話し合うことで実践への意欲をもたせ、友達の方法のよさを取り入れて計画を立てることができるようになる。</p>
<p>3 家庭実践を行う（夏季休業） <ホームプロジェクト計画を実行しよう> ・レポートを書こう</p>	<p>可視化 レポートを書かせることで、自分の実践をふり返らせ次の実践への自覚を促す。</p>
<p>4 交流会を開き実践をふり返る <実践交流会を開こう> ・実行したこと 工夫 気づいたこと 自分の感想 家族の感想を発表しよう ・ほかの人のやり方や工夫もなかなかいいな ・これからもできることを続けていこう</p>	<p>かかわり 実践的な自覚へのデザイン 交流を通して人から認められる喜びを味わわせこれからの意欲を持続させると共に、学んだことを自分なりに工夫して生活に生かすよさを価値づけていく。</p>

5 本時の学習（3／6）

（1）めざす知識創造 ・実践の方法を友達と話し合う活動を通して、いろいろな方法や工夫があることに気づき、自分の計画の見通しをもつことができる。

（2）展 開

主な活動と内容	時	よさの共有のための手だてと意図
1 課題を確認し学習の見通しをもつ 課題は決めたけど方法が決まっていない 友達とアイデアを出し合おう <実践の方法を話し合おう>	5	
2 同じ課題の友達と実践方法を話し合う ・生活時間の使い方を決めて実行するよ ・日曜日はごはんのみそ汁の朝ごはん作り ・環境を考えた洗濯の仕方を調べてお母さんとやってみるよ ・涼しくする工夫（打ち水、窓開けなど）をして温度の変化を調べるよ ・続くかどうか心配だけどどうしたらいいかな	20	可視化 「かかわり」 計画の具体化に結びつく多様な実践方法が出るように、思いつくことをまず付箋に書く時間をとる。それを模造紙に貼りながら調べること、方法、期間、続ける工夫、準備等に分類して、選択肢を広げ自分に合うことを考えさせていく。
3 模造紙を見合い友達の考えを知る ○生活時間の使い方 期間を決めて表でチェックする ○ご飯のみそ汁・料理 ・作るだけでなく栄養バランスも調べる ○エコに配慮した涼しくする方法を探る ・インターネットなどで調べ実際に試す ○洗たく ・くつ下を手洗いしてから洗濯機で洗う ○手伝い ・自分の仕事を決める・ずっと続ける	10	「かかわり」 自分の方法との違いや共通点を見つける視点をもたせ模造紙を見て回らせ、自分に取り入れたらよいことがないか考えさせる。
4 自分の方法を決め具体的な計画の見通しをもつ ・家の人とも計画を相談しよう	10	可視化 実践的なデザイン 自分の計画書に具体的な方法を書き何をしたらよいかイメージできるようにする